

55 レオナルド解剖手稿の心臓記述に 関する年代的考察 (第二報)

永田 和弘

はじめに

現在のところ、キーレとペドレッティらの「レオナルド・ダ・ヴィンチ解剖手稿」(二九七九&一九八〇)は最も新しい研究成果であり、二百枚の解剖紙葉が年代順に整理され、整理番号(KP番号)が付けられている。演者は「解剖手稿」の中で心臓に関する二十八紙葉を抽出し、レオナルドが心臓に関して解剖学的知見を發展させていく過程を考察した結果、少なからぬ紙葉においてキーレとペドレッティらの年代順序と異なる結果を得たので、昨年度の日本齒科医学史学会において同名の演題で発表した。今回は、C I I手稿の紙葉に記されたアルファベット記号の書き込みに考察を加えて、第一報の紙葉の年代順序を修正した。アルファベット記号の逆順は、

知見発展史の上で矛盾を来たことなく、元来の解剖手稿の順序を示す記号と考えられるので報告したい。

一、材料

「解剖手稿」の心臓に関する紙葉として第一報と同じく、以下のKP番号で示される紙葉を抽出した。

35v, 36r, 50r, 60v, 70r, 71r, 105r, 107r, 109r, 115rv, 116rv, 122rv, 155rv, 156rv, 162rv, 163v, 164r, 165v, 166rv, 167v, 169v, 170r, 171r, 172v, 173r, 174rv, 177r, 195r。

以上二十八紙葉、三十六頁。

パリG手稿¹⁾紙葉は心房に関する記述で、1511.1.5の日付があり参考図譜とした。

二、方法

「レオナルドの知見発展の軌跡」は紙葉の順序を推測する一つの方法である。

以下の五つの項目についてレオナルドの知見の確認を試みた。

a. 下大静脈が肝臓に直結する(肝臓を中心臓器と考えている)かどうか。

b. 大動脈弁の描記があるかどうか。

c. 肺動脈（弁）の描記があるかどうか。

d. 下大静脈から肺に直接的に血管が走行しているかどうか。

e. 心房または房室弁の描記があるかどうか。

これらの項目をどの様に克服しているかによつて、知見の発展の度合を知ることができる。

その他に年代順序の決定には次の特徴も参考にした。

a. 同じテーマを取り扱う場合、描画の正確・細密な仕上げの紙葉ほど年代的に後期とした。

b. 同じテーマを取り扱う場合、正確・詳細な説明文のある紙葉ほど年代的に後期とした。

三、結果

KP番号は年代順とはいふものの、年代幅を有する手稿グループがグループ単位の年代順であり、KP番号は決して年代順になっていない。また、同一グループ内であっても、知見発展の順序とKP番号の順序とは矛盾する紙葉があった。しかし、殆どの紙葉は大胆な移動にも関わらず、ペドレッティらが想定した年代範囲内の移動

で納まった。CII手稿に附されたアルファベット記号はKP番号順では無秩序に現われたが、アルファベット順を新しい紙葉から古い紙葉へとふられた紙葉順序を示す記号と仮定しても、知見発展史の上で矛盾をきたすことはなく、むしろ第一報よりも高い整合性を得た。つまり、CIIに付されたアルファベット記号は紙葉の製作順序を示している可能性が高い。

なお、これらのアルファベット記号の記入者は誰か、どうして記号記入をしようとしたかという動機への考察が今後に残された問題である。

レオナルドの解剖図譜の製作順序を知ることにより、レオナルドが何に関心を示し、どのように解明していったかを知ることができる。レオナルドは天才というよりは、己の観察を通して真実に到ろうとする努力の人であったことを知る事ができる。

(東北大学歯学部)